

報道関係者各位

2026年2月10日

アーカスプロジェクト 2025 いばらき

H+H HIBINO HOSPITAL Vol. 82

HIBINO HOSPITAL (日比野美術研究室附属病院放送部)



撮影：後藤充



過去のHIBINO HOSPITALの様子

日比野克彦（アーティスト）によるワークショップシリーズ「ヒビノホスピタル」 第82回目を2月21日（土）14時からアーカススタジオにて開催！

「HIBINO HOSPITAL（ヒビノホスピタル 以下、H+H）」は、1999年から守谷市を拠点に茨城県内各地で開催している、日比野克彦によるユニークなワークショップシリーズ。テーマや内容が発表されるのは、当日。参加者は想像力を膨らませ、はじめて出会う人たちとのコミュニケーションをとおして、テーマに添えてゆきます。H+Hは、アートの知識や技術よりも、まだ見ぬものを楽しむ心があれば、誰でも参加できるのが魅力。出されたお題を考え、話し合い、手を動かし、その先に出てくる表現や気づきを楽しみます。

アーカススタジオの移転に伴い、「もりや学びの里」での開催はこれで最後。H+Hは次回より守谷市内の新たな場所へと引き継がれていきます。

報道関係者の皆様におかれましては、ぜひ、長年この場所で育まれてきたH+Hの、周知・広報にご協力賜りますようお願いいたします。



概要

日時：2026年2月21日(土) 14:00-16:30 (会場受付は 13:45 開始)

会場：アーカススタジオ

内容：当日のお楽しみです。動きやすい格好でご参加ください。

参加費：1人につき 1,000 円 (税込) 現地でお支払いください。

定員：25 名。定員に達し次第受付終了。

申込締切: 2026 年 2 月 20 日(金) 17:00 まで

予約：<https://forms.gle/y2T1eHfG1wPtQoof7>

アーティスト

日比野克彦 Hibino Katsuhiko

アーティスト。1958 年岐阜市生まれ、東京藝術大学大学院修了。1980 年代に領域横断的、時代を移す作風で注目される。作品制作の他、身体を媒体に表現し、自己の可能性を追求し続ける。各地域の参加者と共同制作を行い社会で芸術が機能する仕組みを創出する。1999 年よりアーカスプロジェクトにてワークショップシリーズ、HIBINO HOSPITAL (日比野美術研究室附属病院放送部) を定期的に開催。平成 27 年度芸術選奨文部科学大臣賞 (芸術振興部門)。これまでに、シドニー・ビエンナーレ、ヴェネチア・ビエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭、茨城県北芸術祭、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレなど国内外の主要な芸術祭に参加。近年の個展には、姫路市立美術館 (2021) や水戸美術館 (2025) がある。



撮影：加藤甫

現在、東京藝術大学学長。岐阜県美術館館長。熊本市現代美術館館長。日本サッカー協会社会貢献委員会委員長。そのほか、東京都芸術文化評議会専門委員、公益財団法人日本交通文化協会理事を務める。

ヒビノホスピタルとは

1996年よりいろいろな試みで行われてきた、日比野克彦とその研究室（東京藝術大学）によるプロジェクト『TEST』シリーズ第7弾として、1999年よりスタート。「HIBINO HOSPITAL(日比野美術研究室附属病院放送部)」というプログラム名は、もともとインターネット上にホームページを開設し、「アートによる診療」を施しながら、参加者を対象にオフラインパーティーでワークショップを行い、アーティストとともに作品を制作・展示するという内容に由来します。現在はオフラインパーティーのみの活動となり、システムを一部変更しながら日比野克彦発案による誰でも参加できる多彩なワークショップを継続的に実施しています。H+H Vol.34「明後日朝顔新聞社説明会（新聞社立ち上げ企画会議）」では、のちに「明後日新聞社文化事業部/明後日朝顔」（2003～）につながるなど、これまでの日比野氏のH+Hでの様々な原初的なワークショップ要素は、多層的に多様なアートプロジェクトへと全国展開しています。

主催：アーカスプロジェクト実行委員会

お問い合わせ先

アーカススタジオ (火-土 10:00 -18:00)

〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 担当 | 恩田、藤本

TEL | 0297 - 46 - 2600 E-mail | arcus@arcus-project.com Web | www.arcus-project.com

アーカスプロジェクト実行委員会事務局

茨城県政策企画部地域振興課 担当 | 廣瀬、川上 TEL | 029-301-2678